

野崎家は製塩業と新田開発で財を成した野崎武左衛門がその氣宇に合わせて天保から嘉永年間に次々に築いていった民家です。

敷地面積約三〇〇〇坪・建物延床面積一〇〇〇坪近くあります。長屋門

を入ると、濃い緑を背景とした本瓦葺の主屋群が軒を連ねて美しく、これに並んで威風堂々と軒を連ねる土蔵群

があります。

中門を入ると表書院の前庭となりますが、庭園は枯山水で、児島の豊富な石材を生かして石組に幽玄の風情

を表現しています。庭には各種の常緑樹が林立し、茶室を

並んで威風堂々と軒を連ねる土蔵群

があります。

中門を入ると表書院の前庭となりますが、庭園は枯山水で、児島の豊富な石材を生かして石組に幽玄の風情

を表現しています。

庭には各種の常緑樹が林立し、茶室を

並んで威風堂々と軒を連ねる土蔵群

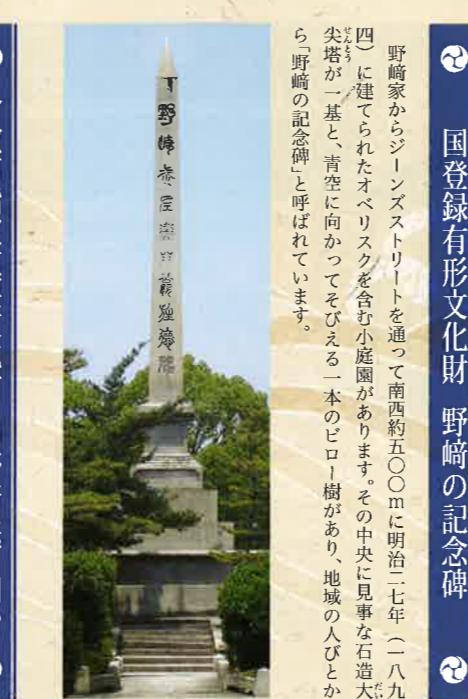
があります。

文政一二年（一八二九）以来、

一貫して瀬戸内の海水から
塩づくりを続けています。

総じて、建物と庭園がこれほど創建のままに保存されているところは稀であり、山陽道の代表的民家と言えるでしょう。

昭和五二年に岡山県指定史跡となり、平成七年に博物館登録され、平成一八年に国の重要文化財（建造物）に指定されました。平成二三年に岡山県の博物館として初の公益財団法人に認定されました。



【公開時間】
9:00～16:30(閉門 17:00)

【休館日】
毎週月曜日(但し、祝祭日の時は翌日)
年末年始(12月25日～1月1日)

【入館料】
大人 500円 小中学生 300円
団体割引 30名様以上2割引

【駐車場】
無料(普通車 36台・バス5台)

※小中学生および高校生は、毎週土曜日、日曜日、祝日は無料です。

※小中学生および高校生が授業の一環として利用する場合は入館料は無料です。

※障害者手帳を持参の方は、入館料が2割引になります。(本人と付添者1名)

※割引の併用はできません。

※お問い合わせお越しの際はご予約下さい。

※塩づくり体験(要予約)

公益財団法人竜王会館は平成23年4月、岡山県教育委員会より公益財団法人の認可を受けました。この認可によって当財団に寄附された個人や法人の皆様は所得税法や法人税法上の優遇が受けられるようになりますので、当財団までお気軽にお問い合わせ下さい。

〒711-0913 岡山県倉敷市児島味野1丁目11番19号

電話 (086)472-2001 FAX (086)472-2636

E-mail nozakike@mx2.kct.ne.jp ホームページ <http://www.nozakike.or.jp>

御成門・長屋門

成門は貴賓の出入りで、表玄関から表書院へと通じております。

長屋門の石垣は、鉢巻積の工法によるもので、七段の石垣を上ると右に桃座敷、左に南座敷があります。

このような門造りは、江戸時代の大屋建築の中でも特に壯麗であり、天保九年（一八三八年）に竣工しています。



庭園

崎家の庭園は江戸末期にできた枯山水の庭園であります。この庭園は表書院からの眺めを中心と置いていたもので、南東の隅には築山を設けて三尊石を立て陰陽思想を表現しています。

庭には黒松・木斛・楓・楓・山桃・姥女櫻などが植えられ四季の移ろいを楽しめてくれます。特に、さつきの萌え出る晩春ともなれば庭の生命が躍動し、訪れる人の目を楽しませてくれます。



表書院

書院は野崎家の中心となる建物で、貴賓の応接にあてられたものです。嘉永四年（一八五二）一月から嘉永五年六月までの一年半をかけて竣工しました。

半の畳床と一間の違棚そして一間の付書院があります。下の間は一二畳半で正面に、一畳半の畳床と一間の違棚そして一間の付書院があります。上の間は一二畳半で正面に、一畳半の畳床と一間の違棚そして一間の付書院があります。下の間は一二畳半で正面に、一畳半の畳床と一間の違棚そして一間の付書院があります。上の間と下の間の境にある欄間は黒の縁取りをしていました。また上の間・下の間の外側には幅一間の畠敷の広縁を廻します。

また石組は大・中・小のリズムをもつて配列され庭の格調を高めています。武左衛門が最初に築いた野崎浜塩田によく似ているお駕籠石が表書院の前庭に配されています。

また石組は大・中・小のリズムをもつて配列され庭の格調を高めています。武左衛門が最初に築いた野崎浜塩田によく似ているお駕籠石が表書院の前庭に配されています。

表書院は四方に一間の庇をつけ、戸には久杉、庇の垂木には北山杉を用いていますが、それ以外の主材は梅でできています。

長さ一〇間の虹梁は地松、雨戸の袋戸には久杉、庇の垂木には北山杉を用いていますが、それ以外の主材は梅でできています。

表書院は四方に一間の庇をつけ、戸には久杉、庇の垂木には北山杉を用いていますが、それ以外の主材は梅でできています。

長さ一〇間の虹梁は地松、雨戸の袋戸には久杉、庇の垂木には北山杉を用いていますが、それ以外の主材は梅でできています。

配置図

国重要文化財指定建造物		附属指定建造物	
1 長屋門	13 台所	24 塩づくり体験館	
2 桃座敷	14 納屋	25 三秀館	
3 南座敷	15 便所	26 三秀館蔵	
4 内玄関	16 味噌蔵		
5 表玄関	17 間蔵（展示館）		
6 御成門	18 新蔵		
7 表書院	19 書類蔵		
8 観霧亭	20 大蔵（展示館）		
9 待合・雪隠	21 内蔵		
10 容膝亭	22 夜具蔵		
11 中座敷	23 向座敷		
12 臨池亭			

展示館

第一展示館では製塩の歴史を学ぶことができます。

入浜式塩田、流作式塩田、そして最新の国産技術の紹介を行っています。

粒を集めた膜濃縮法の製塩工程を写真パネル模型標本、作業道具・VTRなどでわかりやすく紹介しています。

ボーランド産の一トン半の重さがある円柱の岩塩も見応えがあります。

塩づくりの体験館では昔ながらに土鍋で塩を作れる体験ができます。（一週間前までご予約ください。）

草庵茶室

内には、観霧亭・容膝亭・臨池亭の三席の茶室があります。観霧亭は、庭の築山にある二階台目の茶室で、杉材を用いて建てられています。

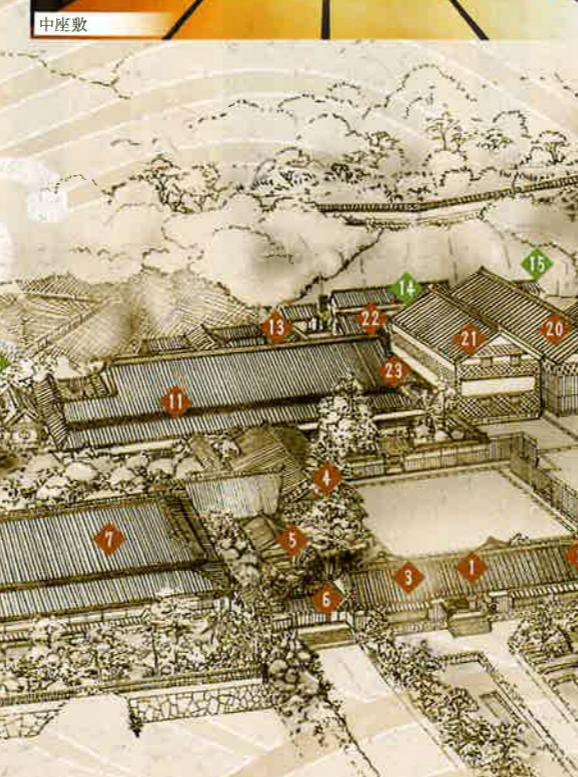
天保二年八月二三日、ここで月見の宴を催した記録があります。

容膝亭は裏千家の名席『又懸』を寫したもので、細部まで正しく模していますが、開口の位置を変えていました。

容膝亭から露地を伝つて臨池亭に至る途中に塩釜明神があり、その隣の築山に蓬萊山と三尊石を置き、枯滝から流れ出た水は石橋を潜り、滝となつて大池に注いでいます。

石は島苔は池を象徴します。その池の傍にありますのが臨池亭であります。

これらの三席は、その頃の頃野崎家の出入りのあつた速水流家元の指導によるものと伝えられています。



中座敷

崎家が往まいの中心とした主屋は天保四年（一八三三）頃の建築であり、中座敷から向座敷まで二三間（四二m）、九つの座敷が連続しています。

向座敷まで二三間（四二m）、九つの座敷が連続しています。

向座